

主語・述語・修飾語

▽文とは

まとまった意味をもった、ひとつづきのことばのことを文といいます。文の終わりには( ) ( ) がつきます。※( ? ) ( や ) ( ! ) をつける場合もあります。

▽主語と述語

主語—文の中で説明のもとになっている語。文のあたまたにあたることば。「何が」、「何は」にあたるもの。  
述語—主語をうけて説明をあらわしている語。文のからだにあたることば。「どうする」、「どんなだ」、「なんだ」にあたるもの。

▽主語と述語の関係

主語と述語には次の三種類があり、「文の基本型」といいます。

(1) 何がどうする(何はどうする) —動作を表す。

↓ 動詞型

例 小鳥が 鳴く。

魚は 泳ぐ。

(2) 何がどんなだ(何はどんなだ) —様子やありさまを表す。

↓ 形容詞型・形容動詞型

例 空が 青い。

雲は 白い。

(3) 何がなんだ(何はなんだ) —ものやものの名まえを表す。

↓ 名詞型

例 あれが 学校だ。

弟は 三年生だ。

▽主語と述語に関する特別な文

文には基本型以外に、次のような例外のかたちもあります。

① 倒置法

文が「主語↓述語」ではなく「述語↓主語」の順にならぶときもあ  
ります。このかたちは倒置法といえます。

例 かわいいね、子犬は。

② 主語や述語の省略

主語や述語ははぶかれる場合があります。

例 火事だ。(主語の省略)

おとうさんは、どこ？(述語の省略)

③ 「が・は」以外のことがつく主語

「が・は」ではなく「も・こそ・さえ・の・だけ」がついて主語に  
なる場合もあります。

例 あなたも 小学生です。

雲さえ 出てきた。

私だけ食べてしまった。

※ 「も・こそ・さえ・の・だけ」の部分に「は・が」をおきかえて  
も意味がとおる場合は主語です。けれどもおきかえても意味がと  
おらない場合は主語ではありませんので注意しましょう。

④ いろいろな形の主語

主語には次のような形もあります。

例 あれは 私の かばんです。

人生というものは はかないものだ。

読んだことが 役に立った。

赤いのが 動いている。

写すのは かんたんだ。

主語・述語を書きましょう。ない場合は、×と書きます。

(1) 花は、きれいだ。



(2) 何、あの草は。



(3) お母さんは。



(4) どうしたの。



(5) さるは動物です。



(6) どこ行くの。



(7) 雨、ふってる。



(8) ぼくのは。



(9) 光ったよ、かみなりが。



(10) ごはん、何。



主語・述語・修飾語を書きましょう。ない場合は、×と書きます。

(1) 私の兄は中学生です。

□



□



□

(2) 赤いチューリップがさいている。

□



□



□

(3) 父の本はむずかしい。

□



□



□

(4) サッカーははげしいスポーツだ。

□



□



□

(5) 空に星が光る。

□



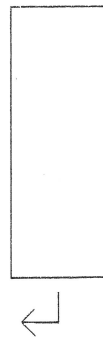
□



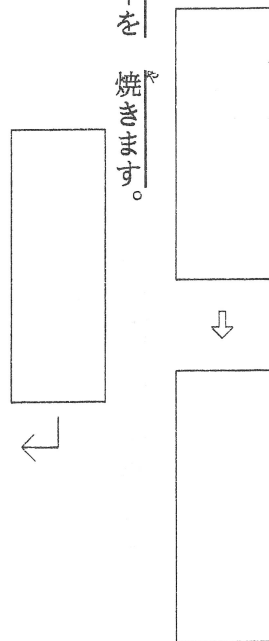
□

主語・述語・修飾語を書きましよう。ない場合は、×と書きます。

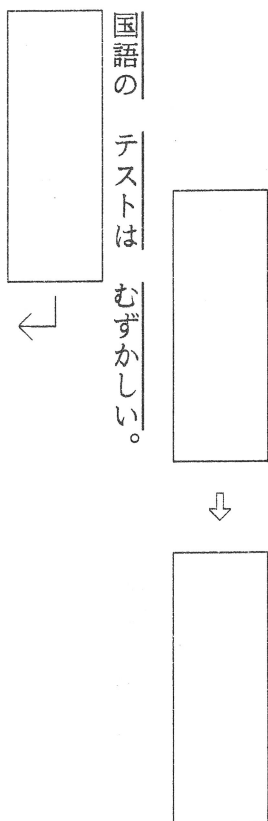
(1) 楽しい 夏休みが始まる。



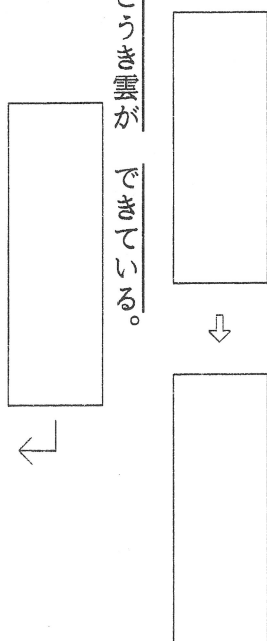
(2) 私が ケーキを 焼きます。



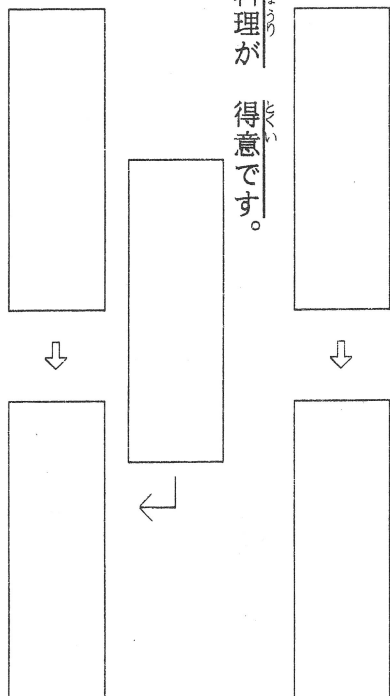
(3) 国語の テストは むずかしい。



(4) 空には ひこうき雲が できている。

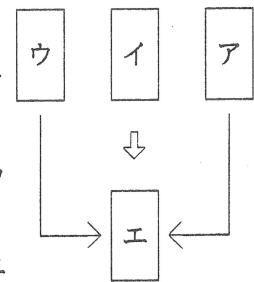


(5) 母は 料理が 得意です。

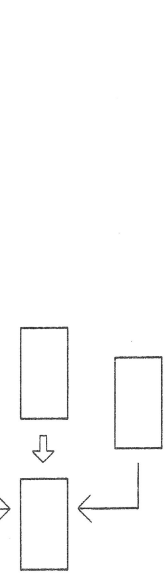


主語・述語・修飾語の関係を考えて [ ] の中に記号を書きなさい。

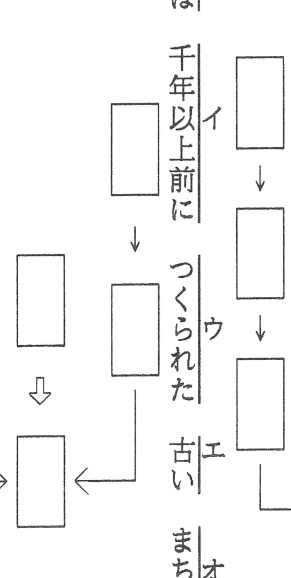
(例) とつぜん ア 犬が イ 私に ウ かみついた。 エ



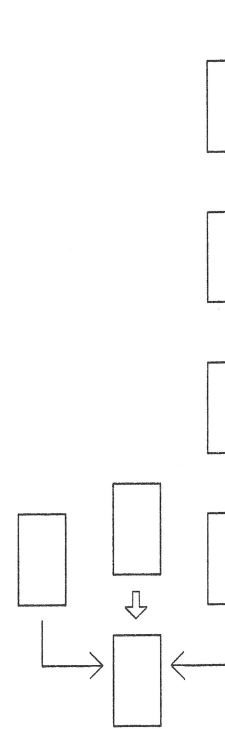
(1) 4月 ア から 妹は イ 私と ウ 同じ エ 小学校に オ 通います。 カ



(2) 京都は ア 千年以上 イ 前に つくられた ウ 古い エ まちです。 オ



(3) 去年の ア 秋に イ 転校した ウ 友達から エ 久しぶりに オ 手紙が カ 来た。 キ



主語・述語・修飾語の関係を考えて [ ] の中に記号を書きなさい。

(1) 私は、泣きながら バスに 乗る 鈴木君を 見送った。

(2) 私は 泣きながら、バスに 乗る 鈴木君を 見送った。

(3) 林さんは、お母さんと お父さんが 帰ってくる前に 夕食を 食べました。

(4) 林さんは お母さんと、お父さんが 帰ってくる前に 夕食を 食べました。

